

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3071000453		
法人名	医療法人 敬英会		
事業所名	グループホーム幸楽の里(白樺)		
所在地	和歌山県橋本市隅田町山内1919-3		
自己評価作成日	令和3年3月14日	評価結果市町村受理日	令和3年5月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JkyosyoCd=3071000453-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	令和3年4月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは豊かな自然に囲まれ、リビングや各居室からも四季折々の風景を楽しんで頂ける環境にあります。家庭的な雰囲気の中で過ごして頂きたいという思いから、職員は私服で利用者様と接し、普段のお食事もホームの中で職員が手作りで提供しています。お食事を最期まで口から食べて頂ける様にと、歯科衛生士の指導を受け、必要であれば歯科医の治療も行なっています。落ち着いた雰囲気の中でゆったりとした生活を送る事により、その人らしさを見つけるお手伝いをさせて頂いています。看取り支援にも取り組んでおり、家族様と職員が協力し合い最後までその人らしく穏やかに過ごして頂けるように努めています。又、地域との関わりや繋がりを大切に考え、盆踊り・運動会などのイベントには出向き、クリスマス会には地域の方々をご招待するなど、利用者支援とともに地域づくりを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念にそって日々の生活の中で一人ひとりの状態に応じたケアや尊厳のある生活が出来るように会議の中でも常に話し合いをもっている。項目が多い理念になっており解かりやすくではあるが覚えにくい難点もあり、簡素化を検討するも実施出来ていない。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	立地条件もあり日常的な交流は出来ていない。地域の行事(盆踊り・運動会)に参加秋祭りには子供神輿が立ち寄ってくれたり、自施設のクリスマス会は毎年地域の方も参加頂いている。また地域の一員として草刈等に職員が参加しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議をとおして、老人会会長様より毎年依頼があり、法人として地域貢献している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	近隣の区長様2名、長寿会会長、市職員の参加を得て利用者の状況説明、行事の報告、避難訓練の様子においては写真を見て頂いて報告しています。身体拘束の状況報告、地域の防災の学びに呼んで頂いたりと情報の共有やアドバイスを頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	依頼があれば出来る限り引き受け協力している。介護保険改正等解からない事があれば随時相談している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	フロア会議で身体拘束について勉強会を行い特に言葉の拘束については会議の議題によくあがり皆で注意している。身体の危険が伴う行為については主治医、家族様、会議での話し合いをもち検討している。		

グループホーム幸楽の里(白樺)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	痣チェックは入浴時、又発見時に記録、写真に撮り皆で共有、利用者や職員から訴えや報告があった場合は早急に事実確認、話し合い、問題の解決、報告努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	2021年度の自施設勉強会予定に入れ勉強の機会を持つ予定にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	コロナ渦までは事前に見学、ホームの様子を見て頂き、家族様が持っている不安や質問をゆっくりとお聞きするように心がけている。改定時には事前にお知らせにて文章説明、新たに契約を結び再度説明理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からは食べたい物の希望や外に出たい希望には外気浴を兼ねてその都度対応している。コロナ渦では面会の自粛もあり、家族様の心配に依じてFaceTimeを使い面会して頂いている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議で意見や提案が出され話し合いの場を持っている。契約時の個人面談では、職員の思いや意見を聞いている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当や等級制度、頑張っている人が認められる様な制度になっている。継続雇用65歳、賞与支給と長く働ける条件の整備により、やりがいにも繋がっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人員の問題、コロナ渦もあり外部への研修を受ける機会の確保が難しく、自施設での勉強会は定期的実施している。年間で計画を立てテーマに沿い担当が勉強、発表し皆で共有学びの場をもっている。		

グループホーム 幸楽の里(白樺)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他法人と相互訪問、交流の機会はもてていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	居宅のケアマネ、家族様より情報を得る不安な気持ちに寄り添い、本氏の訴えを皆で共有し安心して生活が出来るように努めている。時にはショートを利用し環境に慣れて頂くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の要望や不安に思われている事は時間をとってお聞きし、入所間もない頃は密に家族様に連絡を入れ、協力を得ながら落ち着いた生活が送れるように支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所を希望の場合でも状態や希望をお聞きしつつ要望に応じて他施設を紹介させて頂く事もある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の残存能力や今までの生活を考慮し役割や達成感もてる様努め、又感謝の気持ちを十分に伝え、人の役に立つ喜びを感じてもらえるように心がけているが年齢とともに意欲や体力の低下もあり難しくなっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居時に出来る限り受診支援や外出支援の協力をお願いしている。利用料金振り込みや引き落としではなくご持参いただき面会をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ渦までは来訪時は居室に案内しお茶を出しゆっくり過ごしてもらえよ配慮しています。多様な希望でも出来る限り希望に添える様努めている。		

グループホーム 幸楽の里(白樺)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格や相性を見極めトラブルが起きないように、又職員がフォロー出来る様常に気配りし、共に認め合い助け合える関係性を保てるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院で契約が中断、終了した場合でもお見舞いに行き今後の相談や支援に努めている。又他界されたとの連絡を頂いた時は出来る最後のお見送りに参列させて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居の際は自宅を訪問し生活の様子をお聞きしホームで暮らす望む生活や意向の把握に繋がっています。入居後は日々関わる中で思いを聞き、意思表示の出来ない方は表情などから汲み取ったり家族にも聞きながら、フロア会議でも検討し共有に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	新規利用時には家族様、本人、ケアマネに生活歴をお聞きしフェイスシートを通して職員皆で共有に努めている。又本人より得た新たな情報は会議等で報告し支援の役に立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録のケースを記入、業務日誌にまとめ日中、夜勤と一日の状態を把握介助にあたる様にしている。身体的な特変は赤字で様子の変化や本人の訴えを青字で記録するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日中、夜間帯の介護計画を作成していません。毎月のフロア会議での意見、家族様本人思いや意向を汲み取りケアプランに反映させています。主治医からリハビリ等で提案があった場合も意見を反映させています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に本人の様子や状態を記録に残すように努めているが、見直しに活かすところまでの記録は出来ていないと思われる。日々の利用者の様子や会議提案を基に見直している。		

グループホーム幸楽の里(白樺)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自事業所内の老健施設から、在宅復帰支援の一環として、グループホームで生活リズムを整えたり、各利用者に合った食事や生活リハビリ等、可能な限り、個別対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年、地域行事、祭りや盆踊り、運動会等に利用者と共に参加させて貰っていたが、今年度はコロナ禍の為中止となった。施設内で行える、花見やそうめん流し、花火やクリスマス会等、季節の行事を大切に、楽しみのある暮らしを提供した。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	可能な限り家族様とも協力し、かかりつけ医の受診を継続したり、受診が不可能な場合は、本人、家族様了解の下、その方に合った訪問医に往診をお願いし、常に利用者の状態や、ケアプランの考察にあたり、連携を持つよう努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルチェックの継続や、変化に気づいた場合は記録に残し、看護職に相談や指示を仰ぎ、適切な対応が早く出来るよう対応している。又、記録ノートや連携ノートを作り、誰が見ても状態の確認ができるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に至るまでの、利用者の状態やアセスメントシートを入院時に病院に提供したり、入院中に変化があればお知らせ頂く様、連携室とも連絡を密にする心がけている。又退院時は本人、家族様とも不安無くスムーズな運びとなる様、病院側とも日程調整を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人家族様より、入所時に大まかな終末期の対応についてのお考えを確認したり、体調の悪化に伴い、終末が近づけば、主治医、家族様、施設職員等がグループホームで可能、不可能な事を話し合い、家族様の考えの変化にも小まめに対応出来るよう話し合いの場を持つ様努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年の避難訓練の際に、消防署員による心肺蘇生術やAEDの使用を学んだりしているが、今年度はコロナウイルスの為、看護職員による緊急時の吸引や心肺蘇生術、AED使用法を勉強会で学び、慌てず対応出来るよう行った。		

グループホーム 幸楽の里(白樺)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回昼夜を想定した訓練のうち、1度は消防署の協力を得て通報や階段を使う場合の安全な避難方法をアドバイスを得ています。土砂崩れを想定した訓練では避難ルートの確認をおこなった。地域の防災計画の集まりに参加し運営推進会議では災害時の協力を依頼しています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	フロア会議で接遇マナーや言葉遣い、声のトーンや語尾の使い方第三者が聞いても違和感のない丁寧な対応するように伝えていますが、常に皆で自身の発する言葉について気をつけて対応し向上し続ける必要がある。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定の意に添える様、傾聴し訴えを最後まで聞くことに努め寄り添う事の重要さ大切さを日々忘れずに行動している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	終日とはいかないが、出来る限り一人ひとりの希望に添えるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	全ての人が自己決定する事は難しく職員での決定となることが多々あるが、毎日同じ服にならないように、又、自身で服を選ぶことの出来る方をお聞きしている。朝の整容にも気をつけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食べ物 鍋や、流しそうめん、誕生日メニュー、肉や魚が重ならないよう献立を決めています。野菜の皮むきや、盛り付け、出来る事のお手伝いをお願いしながら食べる楽しさを大切にしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の個人記録に食事量、水分量を記録し食事量低下時には、本人の好まれる、あんぱんや果物等を追加提供している。		

グループホーム 幸楽の里(白樺)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施、夜間は預かり洗浄剤を使い衛生に留意している。週に一度歯科衛生士による口腔ケアあり異常があったり利用者から訴えがある時は治療も行っている。職員に対しての指導もあり。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排尿パターンを把握したうえで立位の出来ない、又不安定な人に対しては二人介助にてトイレ誘導。利用者の持つ力に合わせ布パンツを使用することもある。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の食生活に関しては根菜類、野菜類を多くとり入れたメニューとし、お茶をはじめとする水分は量を記入し、主治医により既定の量の方もいるが多く摂る様に心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	自施設では一日おきに入浴としている。二人介助の方も増え、希望のタイミングに合わせる事が難しいが出来る限りゆっくり入って頂けるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に合わせて部屋やリクライニングで過ごせる様に声掛けをしている。掛け布団は羽毛布団を使い季節、室温に合わせて2種類の布団を使いわけている。シーツはしわが無いように気をつけ部屋の室温や、湿度も常に確認し気持ちよく休める場を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬ケースに薬名、用法が記入された者が添付されており、服薬の変更や臨時薬がある時はケースに付箋をつけ、又申し送りノートで共有、新しい薬を飲み始めての主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	加齢や病気の進行により出来る事が少なくなってきたが、出来る事を探し日々の生活が少しでも活気づき楽しいものとなるよう、笑い声や笑顔が多く見られるよう同じ目線で行動している。歌、カード遊び、計算ドリル、塗り絵、体操等取り入れている。		

グループホーム 幸楽の里(白樺)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ渦までは年間を通して季節の移り変わりを感じて頂くため初詣や施設前での花見と豪華な食事、外食に出かけました。希望者は敬英会の一泊旅行に家族様も参加され日々とは違う時間を過ごされる事もあります。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一名の方がおこずかい程度の所持金は持っているが使う場面の支援はできていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	帰宅願望で不安な様子の利用者に対し家族様と連絡を取ることで落ち着き、その後安心して過ごされる事がある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間にはソファやリクライニング、懐かしい音楽を流し、照明は暖色系にこだわり、温かな空間づくりをしている。共有空間は毎日拭き掃除を行い気持ちよく過ごせるように配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアには机が2か所、ゆったりとしたソファ、リクライニング、思い思いの場所で過ごせるように配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた物を持ってきて頂いています。テレビの好きな方は将棋を録画し楽しみを持たれています。使われていた鏡や家族の写真を置かれ、自室だと認識される事もあります。短期利用の方用にテレビもありお好きな方に使っています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お部屋の表札を改装時に少し下げ見やすい位置にしました。入所間もない頃はトイレや風呂場と張り紙を行いわかりやすく案内している。		